

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400041		
法人名	(株)福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑西春(Aユニット)		
所在地	愛知県北名古屋市長楽寺東三丁目183-1		
自己評価作成日	平成25年3月10日	評価結果市町村受理日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成25年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開設から2年が経ち、職員の連携、チームワークもでき利用者様おひとりお一人の担当職員の決めプランに反映させ支援に努めています。 3ヶ月に一度のお手紙には、職員からのコメントを添えています。 地域との交流では幼稚園との定期的な訪問も続いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>プランターでの野菜作りを、利用者とともに作物の成長を観察したり、世話をを行い収穫された野菜は食材として利用され、季節感のある食卓を彩っている。気候の良い時は、玄関前の駐車場やホーム前の公園に出かけ、食事、お茶などを楽しみ、積極的に外の空気に触れる取り組みを行っている。職員はチームワークも良く、それが利用者のケアサービスに反映している。開設から2年とまだ日は浅いが、地域に根ざしたホームとなるよう地域の秋祭りなど行事には積極的に参加して、より良い関係づくりに日々努めている。毎月作成される遊楽苑通信には、利用者の笑顔や行事を楽しんでいる様子が掲載されており、家族からは好評である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務者内に掲示され、毎日の朝礼時に唱和し理念の共有の意識づけを行なっている	ホーム独自の理念を職員とともに作り上げ、朝礼時に唱和を行っている。新人研修のオリエンテーションでは、しっかりと内容を掘り下げて理解を深めている。職員一人一人が自己研鑽に励むよう管理者が中心となって指導にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板を利用者と一緒に回したり行事に参加し地域とのつながりを持っている 地域の幼稚園との交流も深めている	近所のスーパー、ドラッグストア、喫茶店などに出かけ、積極的にホームから地域との関わりを持っている。盆踊り、秋祭りなどを通して地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の集いに参加し「介護のこつ」についてお話をさせていただいた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、取り組み状況などを報告、話し合いで出た意見を元にサービスの向上に努めている	ホームの運営状況、現状報告を行っている。花壇の整備など具体的な意見をもらう事ができた。その結果、プランターでの野菜作りにも発展し、水やりなどの世話を利用者とともにやっている。収穫した野菜は、食卓にあがり喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の会議などに積極的に参加している	地域包括ケア会議に積極的に参加している。ホームの便りを持参し、近況を報告しながら日頃より担当者とのより良い関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングにおいて勉強会を行なった 玄関のドアは事務所内から操作しているが、手動でも開けられる 夜間は21時～5時まで施錠している	毎年4月か5月のミーティングで必ず話し合い、勉強会の内容としている。言葉による拘束の防止は、日頃から職員同士で注意合っている。職員が利用者の気持ちになる体験を実施して、結果として職員のスキルアップにつながっている。。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会にて学びミーティングにおいて報告した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後機会を作り勉強会を行なう予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一つ一つ納得、理解出来るまで説明させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に一度生活状況を郵送し、家族からの意見をいただいたり面会時には近況を報告させていただいている	家族が面会に訪れた時に積極的に話しかけ、会話の中から要望、議題を探り「家族の声」シートに記録している。入浴時や一緒に摂る食事の時に、TVからの話題などをもとに、利用者の要望や思いを言ってもらえるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月の一度のミーティングや年に一度の個人面談を設けて反映させている	現在、記録時間短縮のための対策や職員がとれる休憩時間の確保など業務改善に積極的に取り組んでいる最中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が施設に出向き職員の意見などを話す機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を実施したり、社外研修にも参加できる機会がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修に参加し、他事業所との交流、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居時にアセスメントを行い情報の収集に努め安心できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望に耳を傾け、要望に沿ったサービスを取り入れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向や必要としている支援を見極め必要なサービスの対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を生かし出来ることをしていただき、寄り添い、共に暮らしているという関係を築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況をお伝えすることで家族の意見や要望をお聞きしたり、通院、外出などの協力していただき共に支えていく関係に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きなれた美容院や喫茶店に家族の協力の下、外出していただけている。また、馴染みの方が来苑された時はゆっくり過ごしていただけるように努めている	定期的な通院の付き添い、毎月の墓参りなど家族との関係性の継続も大切にしている。入居してからの近所の人や買い物など馴染みの場所との関係づくりにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員が会話の中に入れるようきっかけ作りの支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの働きかけは行なっていないが 必要に応じて相談・フォロー努めていきたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からのコミュニケーションを図り、会話の中から希望、意向を把握し情報共有をしている。困難な場合は家族の情報を元に職員同士で話し合っている	話し好きな利用者が多く、日常会話の中や個別対応時に思いや意向を聞き取り、家族からのアセスメントも参考にしている。認知症や難聴のため、会話が困難な利用者には身振り手振りを使い、意思確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からのアセスメントで情報収集しサービス利用の経過などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、日誌、連絡帳などや申し送りで一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月の一度のミーティングにおいて意見、情報交換を行い、担当職員によるモニタリング、チームカンファレンスにより介護計画を作成している	各利用者に担当職員を決め、サービス実施状況を月に1回のモニタリングやミーティング時に確認している。見直しは3ヶ月に1回行い、本人や家族から意向を聞き取り、チームで話し合い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送り、連絡帳を通し情報の共有を行なっている 個人ファイルに気づきの記入が書き留めるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社内の他のサービスと連携がとれ提供できるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、希望があれば買い物に同行したりして外出の企画を立て外に出る機会を作り支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診を受け、緊急時体調不良時は家族に連絡し適切な医療を受けられるよう支援している	現在、ほとんどの利用者はグループホームの協力医に変更している。月2回の往診もあり本人や家族も安心している。内科以外の通院は家族受診を依頼しており、家族の協力で眼科・歯科など継続して受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や怪我などがあった時は看護師に報告・相談し適切に対応している、必要ならば受診し家族に連絡している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は見舞いを兼ね看護師より情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が考えられる場合は家族と話しあい、意向を聞きとっている	当事業所は看取りの経験がまだ無い。今後、利用者の重度化が予想されるので、今年度より看取りについて確認書を作成して家族と話し合っている。法人内で看取り経験がある事業所で研修や意見交換などを行い、事業所としての体制作りを開始している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回は消防署より救命措置の訓練を受けているが定期的な訓練は行なわれていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回は消防署立会いの下に、避難訓練を実施しています 2ヶ月一回は、職員、利用者のみで避難訓練を行なっている	地区の防災訓練に地域住民と参加して、災害時の協力を依頼している。法人本部には貯水タンク・米・無線機、事業所として3日分の食料・消耗品など確保している。2ヶ月に1回の避難訓練や電気器具のチェックなど消防署立会いで行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにおいて勉強会を行なったひとり一人の人格を尊重、プライバシーを確保する為にコミュニケーションを図り、情報を共有し配慮するよう心がけています	プライバシーに関する勉強会を開催して、利用者に不快な思いをさせないように注意している。今年度より、職員に「利用者体験」を実施して、利用者の思いや気持ちが理解できるよう取り組み、入浴や排泄時にも恥ずかしい思いをさせないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いや希望を聞き出せるように努め自己決定できるような声かけにて意思の確認に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、ご本人の意思を尊重した上での生活ペースで過ごしていただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや洗髪、化粧は自らされている 2ヶ月に一度訪問美容室に来ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、提供させていただいている、調理、盛り付け、配膳、下膳など出来ることを生かし職員と一緒にこなしている	献立は季節の食材を取り入れ、利用者の嗜好を聞いて作成している。料理の準備や片付けを職員と協力しながら日常的に行っている。気候の良い時は園庭で食事会や茶会を開催して、職員との団欒も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、咀嚼、嚥下能力に応じて、調整し提供している 一日の水分量は記録に残して把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっている、必要に応じて介助させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの声かけ、誘導を行いパットやオムツの使用を無くせるよう努めている	チェック表にて、排泄状態を確認してトイレ誘導を行っている。現在、自立された利用者が多く、今後も定期的なトイレ誘導を継続している。便秘気味の利用者には、牛乳や水分を多めに摂ったり必用に応じて薬を使用するなど、自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや牛乳やヨーグルトなどを提供することで工夫に努めている。必要に応じて下剤も対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきの入浴となっているが、本人の希望をお聞きし対応している	ゆっくりと入浴される人や唄を楽しまれる人、福祉用具を活用し安全に入浴される方など利用者の希望や状態に合わせて支援している。入浴拒否の利用者には無理に勧めず、次の日に予定を変更するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んでいただいたり、ご本人が休憩を望まれたときは休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	共用部、台所に薬の内容説明のファイルを設置しいつでも閲覧出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を取り込んだり、一人ひとりの残存能力に合わせたレクリエーションを行ったり、買い物などに行き気分転換の支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には希望があれば行っているが外出支援には、利用者個々において差が出てしまう	日用品の買い物や外食、散歩に出かけ、季節に合わせての花見や盆踊りなど日常的に外出支援をしている。家族の協力で、馴染みの喫茶店や美容院、墓参りなど継続して外出する機会が多く、利用者も外出を楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には苑で管理しているが、買い物に行かれた際は使っていたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族に電話を掛けていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾り物を作ったり、季節の花を飾ったりしている	事業所はバリアフリーで廊下も広く、手すりも各所に設置してあり利用者が安全に過ごせるようになっている。リビングなどは、利用者と職員が協力しながら掃除や季節の飾り付けを行い、日中はテレビや団欒を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にソファを設置しゆったり過ごせるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や家具を持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう協力していただいている	エアコン・カーテン以外は持ち込みとなり、利用時に使い慣れた鏡台や家具などを持ち込み家族と職員が協力して、掃除や飾り付けを行い利用者が落ち着いて過ごせるよう、季節や状況に応じて模様替えなど対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室には手すりを設置し床は段差がなくバリアフリーになっている 台所はIHを使用し、施設内で火を使うことはない		

### 外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2397400041
事業所名	グループホーム遊楽苑西春

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地域の秋祭りには、神輿が出てお稚児さんが苑を訪れ、利用者と一緒に写真を撮り交流の機会となった。地元の幼稚園の園児がダンスや唄を披露し、利用者とプレゼント交換などをして敬老会を盛り上げた。日用品の買い物や近所のスーパーへの買い出しなど、地域に積極的に出かけている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議の場で、地域の名所を尋ねたり、喫茶店を紹介して貰うなど、ホームが地元で溶け込む事ができる情報をもらい、実際の行事などに活かしている。ホームの現状や利用者の近況報告を行い、様々な意見を貰うための情報提供を行っている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 地域包括ケア会議に積極的に参加している。ホームの便りを持参したり、近況を報告しながら日頃より担当者とのより良い関係づくりに努めている。地域の人に広くホームを知ってもらうために、パンフレットとは別な機関誌の作成を進めている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族の面会時には、職員から積極的に話をするように努め、意見や要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。利用者からは普段の何気ない会話の中から、意見や要望を探るようにしている。TVからの話題を利用者に投げかけ、表情などからも意向を探るよう努めている。遊楽苑通信が毎月発行されている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	—	×	○		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。